

# 「音楽科」学習指導案

1. 日時 平成26年9月

2. 場所 音楽室

3. 学部・学年・組 高等部 第3学年

4. 単元名 「リズムで遊ぼう」

5. 単元目標

- ・手作り楽器を製作して、自分だけの音とリズムを創ることができる。
- ・絵本や物語に出てくることばに音とリズムをつけて演奏することができる。
- ・身体を楽器にしていろいろなリズムを打つことができる。
- ・いろいろな打楽器を使ってアンサンブルに参加することができる。

6. 生徒観 略

## 7. 教材観

本教材は、ドイツの音楽教育家、カール・オルフの「オルフ・シュールベルク（子どものための音楽）」の考え方を一部取り入れたものである。オルフは、「子どもの音楽にとって理想的なのはエレメンタール（根源的）な音楽だ」と言っており、特徴としては、「・リズムを基本に置いている ・ことば（母国語）をリズムや旋律の出発点としている ・音楽だけ単独に行うのではなく、ことばと身体の動きを含めた音楽を重視している」などがあげられる。太古の昔、どの民族も人々は、雨乞いなどの祈りを歌や踊り、身近な道具を鳴らして表現したり、輪になって全員でことばを唱えながら、手拍子をし、身体を動かしたりして喜びを共有してきた。つまり、音楽は本来、生活の中にごく自然に存在していたものであり、人間のことばや感情、動きと密接に結びついている。そういう本来誰もが持っている音楽性を、教え込むのではなく、生徒から引き出し、主体的で豊かな表現へと発展させていくことが重要であると強調されている。そのため、エレメンタールな音楽の出発点は、身近な楽器である身体を鳴らしたり（ボディパーカッション）、短く簡単なリズムを何度も繰り返したり（オスティナート）、ことばをリズムやメロディーにして発展させるなど、使われる音素材はかなり身近でシンプルである。本教材は、どの生徒も、比較的簡単に模倣ができ、それぞれの生徒に合わせてアレンジもしやすく、一人ひとりの生徒の楽しく生き生きとした表現を引き出すことができると考えている。

## 8. 指導観

音楽の授業では、音楽活動を通して豊かな感性や表現力を育てること、音楽を楽しむ態度を育てることを目標に、歌唱・器楽・鑑賞・身体表現に取り組んでいる。毎回、初めに授業の流れを説明した上で、身体ほぐしの体操と発声練習を行い、見通しをもちながら、落ち着いて授業に取り組むことができるように工夫している。前半は主に歌唱、後半は楽器やダンス等の身体表現を行い、さまざまな音楽に触れることで、生徒が生き生きと自己表現できることを大切に、授業を展開している。

本教材では、音楽を形作っている重要な要素の一つであるリズムに着目している。これまで、簡単なリズム

打ちや和太鼓、打楽器合奏は何度も行ってきたが、今回は、改めて音楽の基盤である「リズム」を題材に、様々な角度からアプローチすることによって、生徒自身が持っている生き生きとした音楽表現を引き出していきたいと考えている。まずは、手作り楽器の製作に初めて取り組み、音の出る原理や楽器の構造を体験的に理解し、自分だけの楽器を完成させたい。そして、オリジナル楽器を演奏する喜びを感じながら、仲間とともに楽しくリズム打ちやアンサンブルをすることへと発展させたいと考えている。また、おなじみの物語の中のリズムカルなことば（オノマトペ）に楽器で音をつけて、リズムや音、楽器に親しみ、楽しんで演じてほしいと思っている。さらに、一番身近な打楽器である、身体を楽器にしたボディパーカッションに挑戦する。手拍子や足拍子、指打ちだけの演奏は、直接リズムをダイナミックに身体で感じ取り、豊かな表現へとつなげていくことができると考えている。リズムを覚えるのが難しい場合は、リズムをことばに置き換えて覚えやすくするなど生徒に合わせて工夫をしていきたい。いずれの教材も、一方的に教え込むのではなく、遊びの要素を取り入れてゲーム形式にしたり、生徒のアイデアをどんどん取り入れいれたりしながら、生徒の創造性や自発性を伸ばし、みんなとリズムにのって音楽を演奏する心地よさ、表現の楽しさを感じることができるよう展開したいと考えている。

## 9. 単元の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手作り楽器の作り方に興味をもって製作に取り組んでいる。</li> <li>・お話に出てくることばに着目し、ふさわしい効果音を考えようとしている。</li> <li>・ボディパーカッションに興味をもち、意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・友達と一緒に楽しくアンサンブルに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを考えて自分だけの太鼓を作ることができる。</li> <li>・お話の雰囲気やふさわしい楽器とリズムを考慮することができる。</li> <li>・手拍子や足拍子、ひざ打ちの音がはっきり出る打ち方を探ることができる。</li> <li>・曲想に合った表現の工夫をしながら、楽しんで演奏している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バケツ太鼓を自分で製作することができる。</li> <li>・ことばのもつリズムを感じ取り、リズム打ちができる。</li> <li>・手拍子や足拍子、ひざ打ちの模倣ができる。</li> <li>・一つのリズムを繰り返して打つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術鑑賞会でプロの太鼓演奏を実際に鑑賞する。</li> <li>・友達が考えたリズムに関心をもって聴くことができる。</li> <li>・「ボディパーカッション」の映像を手や足の動きやリズムに注目して鑑賞する。</li> </ul>

## 10. 単元の指導と評価の計画（全15時間）

次	時	学習内容	評価規準			
			音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
第一次	1	バケツ太鼓を作る。	○			
	2 (本時)	バケツ太鼓を使ってみんなでリズム打ちやアンサンブルを行う。	○	○		

第二次	1	手拍子リレーや手合わせ遊び、バンブーダンスなどを通してリズムに親しむ。			○	
	2	おはなし「おむすびころりん」のリズミカルなことばに効果音をつける			○	
	3	身近な曲に合わせてボディパーカッションをする。 ボディパーカッションの演奏を鑑賞する。	○			○
	2	ボディパーカッションの合奏をする			○	
第三次	3	ボディパーカッションと打楽器を使って合奏をする			○	

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・「トルコ行進曲（ベートーベン）」に合わせて、バケツ太鼓で一定のリズム打ちができる。
- ・バケツ太鼓を使ってみんなで即興的なリズムアンサンブル（コール・アンド・レスポンス）ができる。
- ・画面を見ながら、楽曲に合わせてタイミングよくバケツ太鼓を打つことができる。

### (2) 本時の評価規準

(観点1 音楽への関心・意欲・態度)

- ・積極的に活動に取り組み、自ら楽しくバケツ太鼓を演奏することができる。

(観点2 音楽表現の創意工夫)

- ・一人ひとりのソロの部分（レスポンス）のことばとリズムを考えて演奏することができる。

### (3) 本時で扱う教材・教具

(教材) 歌唱：「小さい秋みつけた」「オワリはじまり」

リズム打ち：「トルコ行進曲（ベートーベン）」「軽騎兵序曲（スッペ）」

即興アンサンブル [コール・アンド・レスポンス]

(教具) バケツ太鼓（一人1台）、キッズジェンベ、動画（太鼓の達人）、CD、スライド

### (4) 生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援のたて等	評価規準・評価方法
15分	<p><b>準備</b></p> <p><b>あいさつ</b></p> <p><b>身体ほぐし</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手足の力抜き</li> <li>・首、腰回し、顔のマッサージ等</li> </ul> <p><b>発声</b></p> <p>「あー」</p> <p>「やっほー」</p> <p>「おーい」</p> <p>「まめ」</p> <p>「フレー」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・椅子を並べる。</li> <li>・授業開始のあいさつを行う。</li> <li>・T1が前で行い、手本を示す。</li> <li>・T2～T6は生徒間に入り、補助する。必要であれば、言葉かけを行う。</li> <li>・スクリーンで、それぞれの言葉やイメージ画像を映し出す。</li> <li>・「やっほー」「おーい」「フレー」では、T1はスクリーン横で手本を示し、T2～T6は生徒間で補助する。</li> <li>・「あー」「まめ」は音階で発声を行う。</li> <li>・T1はスクリーン横で切り替えを行い、T2は、ピアノを弾く。</li> <li>・T3～T6は生徒間に入り、補助する。必要であれば、言葉かけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に参加する準備として、積極的にストレッチに取り組むことができる。(身体の動きを観察)</li> <li>・歌唱前の準備として、しっかり声を出すことができる。(発声、姿勢、表情を観察)</li> </ul>
10分	<p><b>歌唱</b></p> <p>「小さい秋みつけた」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の範唱を聴く</li> <li>・一番から三番まで歌詞の確認をする</li> <li>① 一番のみ歌詞で歌う</li> <li>・曲全体の雰囲気を感じながら、3番まで歌う</li> </ul> <p><b>鑑賞</b></p> <p>「オワリはじまり」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーンに歌詞を映し出す。</li> <li>・T1はスクリーン横で指導を行う。</li> <li>・歌詞の出だしを示す、リズムに合わせて歌詞を指差しするなどの支援を行う。</li> <li>・T2はピアノで伴奏を弾く。</li> <li>・曲の静かな部分と盛り上がる部分とを区別しながら、気持ちを込めて歌うように指導する。</li> <li>・スクリーンに歌詞を映し出し、T1は、音楽の流れに沿って、歌詞を棒で指し示したり、口ずさんだりする。</li> <li>・曲のリズミカルな部分では、手拍子をしてリズムにのることができるようにお手本を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲の雰囲気を意識して歌唱することができる。(発声、歌唱を聴く)</li> <li>・曲の歌詞やリズム、音の長さに注目して聴くことができる。(表情、態度、姿勢を観察)</li> </ul>

5分 休憩		<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶を飲んだり、トイレに行くように言葉かけをする。</li> </ul>	
30分 展開 ②	<p><b>リズム打ち</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を呼ばれたら、バケツ太鼓で4拍子のリズムを叩いて返事をする</li> <li>・「トルコ行進曲」に合わせて</li> <li>・リズムパターンをバケツ太鼓で叩く</li> <li>・バケツ太鼓を使って即興アンサンブル(コール・アンド・レスポンス)を行う。</li> </ul> <p>全員： 「なーにがたべたい」 個人：「○○○」 ♪ ♪ ♪ ♪ (なにがたべたい) ♪ ♪ ♪ ♪ (いちご パフェ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「太鼓の達人」の動画を見ながら、バケツ太鼓をタイミングよく叩く (ミッキーマウスマーチ) (軽騎兵序曲)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの生徒に4拍子のリズムを提示する際、生徒が自分の番だと認識できるように生徒の目を見て名前を呼ぶ。</li> <li>・T1は呼名とリズムの提示、T2はピアノでリズムを刻む。T3～T6は必要に応じて言葉かけや、手を添えて太鼓を叩くように促す。</li> <li>・T1は、ホワイトボードにリズム奏楽譜を示した後、まずは手拍子で打たせてみる。しっかりとリズムパターンを覚えることができるように、何度か繰り返して叩いてみる。</li> <li>・演奏中は、必要に応じてT1がリズムパターンを口で伝えたり、お手本を見せたりする。</li> <li>・まずは全員で「なーにがたべたい」と言いながら太鼓を打つ練習をする。次に自分が食べたいものを考え、それをリズムに置き換えて太鼓で打ってみる時間を取る。その際、まずはT1がいろいろな食べ物の言葉をリズムであらわして例を示す。全員でアンサンブルをする際には、友達の演奏をよく聴くように言葉かけを行う。</li> <li>・強弱やトレモロなどが出てきたら、タイミングに合わせて口頭で伝え、楽しく叩けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4拍子の拍の流れののってリズム打ちができる。</li> <li>・リズム模倣ができる。(演奏を聴く)</li> <li>・「たん(タン)」や「うん(ウン)」などで表したリズム譜を見ながら、バケツ太鼓でリズム打ちができる。(演奏、手の動きを観察)</li> <li>・バケツ太鼓の音を楽しみながらリズム打ちができる。(表情や姿勢を観察)</li> <li>・コール・アンド・レスポンスの意味が理解できる。(練習の様子を観察)</li> <li>・好きな食べ物の単語をリズムに置き換えてバケツ太鼓で打つことができる。(発表を聴く)</li> <li>・楽曲の雰囲気を感じ取って、楽しく演奏することができる。(表情、手の動きを観察)</li> <li>・強弱、緩急をつけて演奏することができる。(演奏を聴く)</li> </ul>

<p>10分 ま と め</p>	<p>・授業の振り返り</p> <p>・連絡帳の記入 黒板に記された記入 事項を書き写す</p> <p>あいさつ</p> <p>・授業の終わりのあいさ つを行う</p>	<p>・T1は本時のまとめとして、今日の 活動の良かったところや気づいた 点を挙げる。</p> <p>・T1はホワイトボードに、「秋の歌 を歌い、バケツ太鼓でリズム打ち をしました。」と書く。</p> <p>・T2～T6は自分で記入できない生 徒の補助を行う。</p> <p>・はじまりのあいさつをした生徒に、 終わりのあいさつをするように指 示をする。</p>	
------------------------------	--	---	--

(6) 教室配置等 略

\*備考

◇当該教科・領域の年間指導計画 略